

今後の推進体制について

高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所・PF 河田 洋

PF 次期光源検討委員会の中間まとめの内容を受け、ERL の建設を表明している日本原子力機構との協力体制の構築、および他の研究機関との連携を進めることを、内外に示すこと、および実質的な検討を進めるために昨年秋に ERL キックオフ・ミーティングを開催した(図 1 参照)。その後、正式な JAEA との共同研究協定を進め、3 月に協定を結ぶに至っている。また、機構内での ERL 計画の位置付けを明確にすることから、所長会議メンバーを中心とする KEK 将来ビジョン検討 WG で ERL 計画の内容を報告する場を持ち、機構内で 4 月から ERL 推進室 (ILC 推進室と同列で) を設置するに至っている (図 1 参照)。

ERL 推進室の概要を図 2 に示す。ERL 推進室は KEK, JAEA, その他の研究施設に構成員からなる室長とコーディネーター数名からなる組織である。一方、実質的なデザインを進める ERL Project Team と密な連携をとり、ERL の実証機の建設およびその原理実証を推進する。ERL Project Team は各要素の技術開発を行うワーキンググループから構成され、その構成員は KEK, JAEA, ISSP, Spring-8、関係大学等からなるオープン組織である。すでに 2 週間に一度の頻度で検討が開始されている。現在全体設計の概念の共通認識を計ることを行っている。また、確実に開発要素が高いと考えられる電子銃、および超伝導空洞に関しては先行して R & D を進める体制が整いつつある。

一方、コーネル大学をはじめとする他の ERL プロジェクトを推進しているグルー

プとの協力関係、特に R & D の技術の共有化、および、ERL によって展開される研究分野の吟味、精鋭化は弛まず行うことが重要であり、研究会、ワークショップを開催する予定である。図 3 にスケジュールを示すが、来年度からプロトタイプ的设计を開始し、実証テストを 2009 年に行い、2010 年には本機の建設にかかるべく推進する。

